

防衛費 6年連続増額、4年連続して過去最高を更新

憲法改悪、軍事大国化への道を許さない！

核・ミサイル開発を進める北朝鮮や、海洋進出の動きを強める中国への対応強化を理由に、安倍政権は防衛力（＝軍事費）を増大させている。防衛費は6年連続増額、4年連続して過去最高を更新している。

2018年度予算案の防衛費は、5兆1,911億円で、その中には地上配備型ミサイル迎撃システム「イージス・アショア」や戦闘機用の長射程巡航ミサイルも含まれている。

安倍首相は、1月22日の施政方針演説で「厳しさを増す安全保障環境の現実を直視し、イージス・アショア、スタンド・オフ・ミサイルを導入するなど、わが国防衛力を強化します。年末に向け、防衛大綱の見直しも進めてまいります。・・・従来の延長線上ではなく国民を守るために真に必要な防衛力のあるべき姿を見定めてまいります」と表明した。

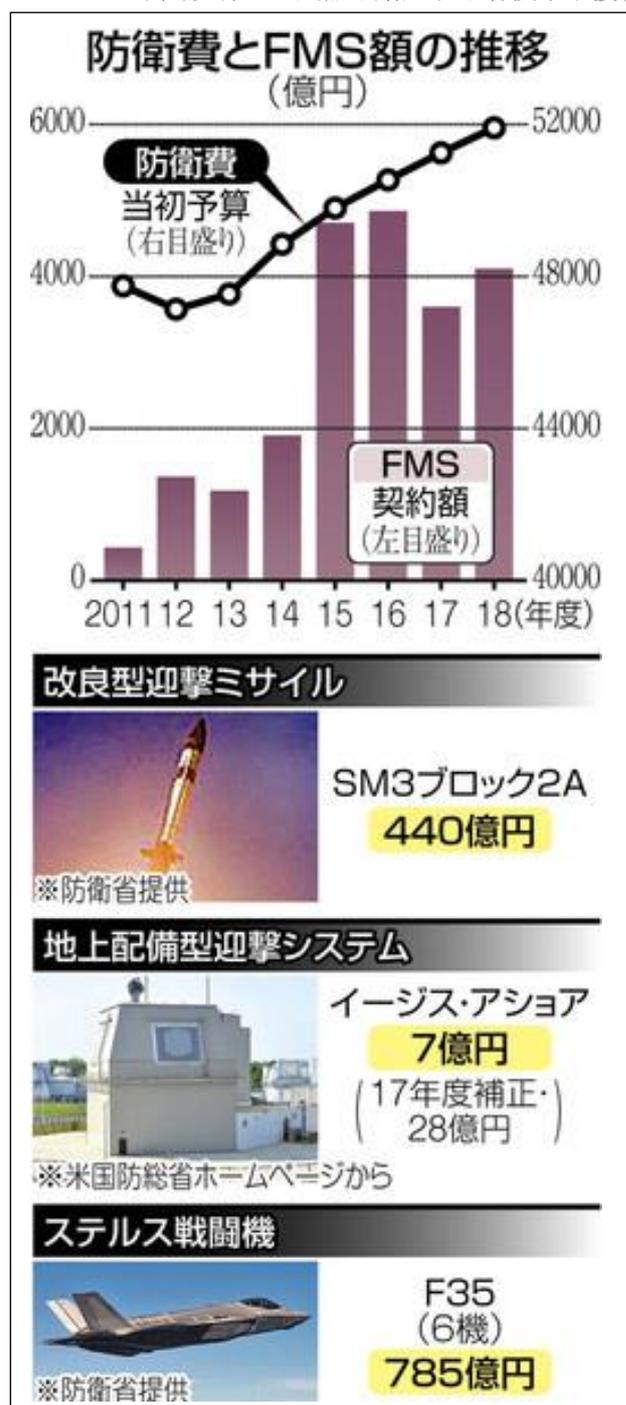
従来以上に軍備を増強させ、アメリカと同様に圧力による平和政策を押し進めることを明らかにしたということだ。

スタンド・オフ・ミサイルは、日本から北朝鮮に届く性能を持ち、敵基地攻撃にも転用が可能だ。日本はこれまで「専守防衛」の防衛戦略から、弾道ミサイルや長距離爆撃機など、敵基地攻撃用の「攻撃型兵器」は保有できないと解釈し、長射程の巡航ミサイルも同列にしてきた。

しかし、安倍政権は「北朝鮮の脅威」を理由にまたもや、軍事大国化への道に突き進もうとしている。防衛艦「いずも」を戦闘機が発着できる空母に改修するなど、自衛のための軍隊ではなく、戦争をするための軍隊へと私たちの税金（国防費）を使って作り変えようとしている。

安倍首相が言う「従来の延長戦上ではない必要な防衛力」とは、まさに「戦争をする国」のための軍隊であり、軍事力だ。

※FMS：米国政府から武器を購入する有償軍事援助



東京新聞より

安倍政権が押し進める軍事大国化の危機に警鐘を鳴らそう！